

CONTENTS

2013 Dutch Lily Days レポート

動き出した「リリーエンジェル・プロジェクト2014」速報

ユリの育種物語 品種開発に貢献した人々のこと 1960年代から現在まで

リリーエンジェル活動報告 6月28日には大田市場で「A新潟ユリサンクスフェアがあります

奈良県 率川神社の三枝祭 6月17日歴史あるゆり祭りがおごそかに行われました

リリーエンジェル in ゆりフェスタ2013！！

2013 Dutch Lily Days レポート

ダッチ・リリー・デー2013が開催されました。今年で第3回を迎え、5月21～24日の4日間、昨年同様オランダ国内16のユリ育種会社、ユリ球根輸出会社が一斉に試験圃場と施設を展示公開しました。



今年は寒かった！

年明けからヨーロッパは低温傾向が続いており、オランダでは3月の平均気温が平年より4℃、4月も1℃、平年より低かったようです。展示会の期間中も日中13℃ぐらいで朝方は5、6℃。念のためにと持って行ったセーターはずっと着っぱなしでした。平年なら日中20℃はある時期ですので、曇って小雨なんか降った日はまるで秋のオランダの様でした。

5月前半には摘花されるチューリップ畑はまだ一面花盛りになっているところも見られ、ユリの植え付け、生育も遅れ気味なようです。

進化を続けるOTハイブリッド

さて、ダッチ・リリー・デーでは育種会社が一斉に試作ハウスを公開する為、ユリ育種の方向性がわかります。育種会社が何を考え、今後どのような品種を世に出してくるのか。また、世界中の多くのユリ関係者がこの期間に来場するため、これら新品种に関して活発な立ち話がハウス内あちらこちらで行われていました。





育種会社では、やはり数年前から進んでいる OT 系（オリエンタル系ユリとトランペットリリーの交雑種）の発表が中心となっており、以前、問題となっていた花型、花首の長さ、香り等は急速に改善されてきています。球根生産会社にとって肥大が良く作りやすい、切花生産者にとってボリュームのある切花が容易に生産可能、などの以前からあるメリットは引継ぎ、さらによりオリエンタルらしい気品のある花もちがよい品種がこれからは主流となってくるでしょう。このようなことから新品种 OT 系の作付け権利の販売は好調なようです。

一方、球根輸出会社では各社取り扱い品種の試験栽



培がおこなわれております。ここでは新品种の実際の栽培環境での生育だけでなく、一般品種の品質チェックも同時に行うことができます。低温環境が続いた中、ダッチ・リリー・デーに開花を合わせてくれた育種会社、輸出会社に感謝！

横浜植木株式会社 西尾望

動き出した「リリーエンジェル・プロジェクト 2014」速報



6月22日と23日の2日間、(有)フカヤリリーストクラブ、(有)高一農場さんのご協力で『Lily Angel 2014』の撮影が行なわれました。初めてのスチール撮影に最初は緊張気味のエンジェルたちでしたが、ユリに囲まれてとっても素敵な表情を見せてくれました。「リリーエンジェルカレンダー2014」もきっと素晴

らしい出来栄えになると思います。10月の発表が今から楽しみです。

ユリの育種物語 品種開発に貢献した人々のこと 1960年代から現在まで

オランダのユリの作付面積を1962年(今から約50年前)と2011年の統計で比較してみると、その違いに愕然としてしまいます。現在でこそ「切り花トップ5」に欠かせないアイテムになっていますが、当時は「球根花その他」で片付けられてしまうようなレベルだったのです。今回はこの驚くべき跳躍に欠かせない重要なオランダ人2人に光を当て、ご紹介いたします。

1962年、オランダ国内におけるユリの作付面積は、96haでした。主な栽培品種はリリウム・スペシオスム「ルブルム」(カノコユリの系統)でした。1973年、作付面積は484haにまで増加し、主な品種として「エンチャントメント」(190ha)が挙げられています。このミッドセンチュリー・ハイブリッド・タイプの品種は、アメリカのオレゴン・バルブ・ファームの代表品種でした。ミッドセンチュリー・ハイブリッドはアジアティックに属し、1973年のオランダでは作付面積の半分を占める割合で作られていました。70年代はこのオレゴン・バルブ・ファーム社の全盛期で、その立役者がオランダ生まれのヤン・デ・グラーフ Jan de Graaff 氏です。



コネチカットキング

ユリの育種はアメリカで大きく飛躍した

ヤン・デ・グラーフ(1903~1989) Jan de Graaff 氏は、ライデンの生まれで、父親はユリの球根生産会社を運営しており、根っからの球根一家で育ちました。1928年、25歳の年にアメリカに渡ります。その後1934年にオレゴン州のオレゴン・バルブ・ファーム社を購入し、アメリカに定住することになりました。この会社ははじめスイセンとアイリスの栽培と育種を行っていましたが、1938年からユリの育種をはじめ、50年代にはユリだけに一本化していきました。

このオレゴン・バルブ・ファーム社にユリの育種家として参加し、のちに多大な功績を残すことになるエドワード・マックリア Edward McRae 氏が同社の扉を叩いたのは1957年のことです。1960年代の同社のカタログを見ると、アジアティックからミッドセンチュリー・ハイブリッド、フィエスタ・ハイブリッド、ハーレクイン・ハイブリッド、オーレリアン・ハイブリッドと多様なタイプに渡る見事な育種品種の歴史を見ることができます。同社が育種したユリ品種のほとんどがオランダに紹介されました。1989年のデ・グラーフ氏逝去の時にはニューヨーク・タイムズ誌やロサンゼルス・タイムズ誌などアメリカの有名新聞紙上でもその死を悼んで回想録が載ったといえます。

名花「スターゲイザー」の誕生

70~80年代のオランダを見てみると、「コネチカット・キング Connecticut King」の人気が高かった時期が長いことに気づきます。そこに登場したのがあの「スターゲイザー Star Gazer」です。花がやや上向き



で、特徴のあるピンク色とその強い香りで一躍人気となり、1995年の作付面積では486ha（オランダ国内全体の作付面積3562haの約14%）という数字を記録しています。

この「スターゲイザー」の仕掛人が、レスリー・ウッドリフ（1910～1997）Leslie Woodriffという人物。ウッドリフ氏は、ユリとペゴニアの育種会社からはじめ、60年代にアメリカ、カリフォルニア州のサンバレー・バルブ・ファーム社に入社し、ユリの育種を始めます。そのときに力を入れたのがオリエンタル品種の開発で、1974年、ついに名花「スターゲイザー」が誕生します。間もなく「スターゲイザー」は世界中でオリエンタルを代表する品種となりました。その後、自ら独立し、フェアリーランド・ペゴニア・アンド・リリー・ガーデンズ社を設立しました。後年になって、オランダのフレッター・エン・デンハーン社が彼の功績を称え「ウッドリフズ メモリー」という品種を発表しその名を残しました。

一般の人にはなじみのない名前ですが、今日のオランダのユリ産業成功の歴史には、遠くアメリカの地で活躍した2人のオランダ人先駆者がいたことを忘れずにいたいものです。（Bloemenbollen visie 記事より）

参考サイト <http://web.uct.ne.jp/ja-engei/yurinohanas.html>

http://dafflibrary.org/?page_id=1741

http://www.humanflowerproject.com/index.php/weblog/flower_confidential

リリーエンジェル活動報告 6月28日には大田市場で「JA新潟ユリサクスフェア」があります



「リリーエンジェル」が全国各地で活躍しています！ 市場やイベントに登場し、ユリの魅力をアピールしています。ぜひ、応援をお願いします！

* * 「リリーエンジェル」の Facebook ページ <https://www.facebook.com/lily.angel.jp>



6月5日(水)から9日(日)の期間で行われた高知市の(株)中村農園『ゆりフェスタ2013』に8名のリリーエンジェルが参加し、ユリのPRを行いました(後述)。参加したリリーエンジェルは、坂本智菜美さん(佐賀県)、永友理沙さん(宮崎県)、平尾冴梨さん(愛知県)、中田早紀さん(北海道)、近藤麻実さん、長谷川美香さん(新潟県)、森田那月さん、森本恵美さん(高知県)の8名です。

6月28日大田市場の『にいがたのユリサクスフェア』にリリーエンジェルが登場します



こちらのイベントでは、大田市場初登場となるリリーエンジェル 近藤麻実さんが新潟の皆さんとユリのPRにやってきます。近藤さんは新潟県村上市あらかわユリ部会、近藤農園でお父様と一緒にユリを育てています。フェアでは、先着50名様に新潟のユリをバックに麻実さんとポラロイド写真を撮影し、プリントにサインをしてプレゼントいたします。このフェアへの参加JAは以下のとおりです。JAにいがた岩船、JA北越後、JA中条町、JA新潟みらい、JA魚沼みなみ、JA津南町、JA北魚沼。

『にいがたのユリサクスフェア』

大田市場日時：6月28日(金)

6時から11時場所：大田市場1階仲卸通り中央

主催：全農にいがた / 新潟県切花協議会



今 Facebook ページではリリーエンジェルたちが各地からレポートをあげています。リリーエンジェルのなかには、実際に生産に携わっているメンバーもいて、栽培・収穫・圃場巡回など、イベントとはまた違う日々の活動を彼女たちなりの感性と言葉で伝えています。



- * 「リリーエンジェル」の Facebook ページ <https://www.facebook.com/lily.angel.jp>
- * リリーエンジェル・プロジェクト 詳しい情報はウェブで <http://www.lily-promotion.jp/program/>
- * リリーエンジェルとユリのPRを希望される皆様は、お問い合わせください！
 - ** 「リリーエンジェル」のページ（リリープロモーション・ジャパン HP 内）
<http://www.lily-promotion.jp/angel/>
 - ** リリープロモーション・ジャパンの Facebook ページ <https://www.facebook.com/LilyPromotionJapan>

奈良県 率川神社の三枝祭 歴史あるゆり祭りがおごそかに行われました

奈良県桜井市の率川神社の三枝祭（さいくさのみまつり）。このお祭りは別名をゆりまつりといい8世紀初期から続いている歴史あるお祭りです。その起源も古く、文武天皇の大宝元年（701）制定の「大宝令」には既に国家の祭祀として規定されており、大神神社で行われる鎮花祭と共に疫病を鎮めることを祈る由緒あるお祭りなのだそうです。

昔、御祭神姫踏疑五十鈴姫命（ひめたたらいすずひめのみこと）が三輪山の麓、狭井川のほとりにお住みになり、その附近には笹ゆりの花が美しく咲き誇っていたと伝えられ、そのご縁故により、後世にご祭神にお慶びいただくために酒罇に笹ゆりの花を飾っておまつりする様になったと言い伝えられています。

アイバルブ・ジャパンのHP内「インスピレーション」ではササユリを手にした4人の巫女が、神に舞いをささげ、神前にお供えするササユリで飾られた酒罇が見られます。

<http://www.lily-promotion.jp/inspiration/history004.html>

2013年の三枝祭も6月16日から18日の三日間の日程で執り行われました。

率川いさがわ神社

<http://www.isagawa-jinja.jp/saitenn.html>

ニュース等

<http://www.nara-np.co.jp/20130618090545.html>

<http://www.asahi.com/area/nara/articles/OSK201306170121.html>

http://www.47news.jp/news/2013/06/post_20130618220039.html



リリーエンジェル in ゆりフェスタ 2013！！



高知県の(株)中村農園試験農場で開催された『ゆりフェスタ 2013 in 中村農園』に、リリーエンジェル達が参加しました。

<http://nfb.co.jp/main.html>

毎年、6月上旬に行われるこの国内最大級のユリの祭典に、リリーエンジェルが来ないわけにはいかない。また全国の切り花生産者と販売流通関係者が一斉に会し、マッチアップを図っていただくのが目的であるこのフェスタのためにも、まさにキューピット役になってもらおうと全

国のリリーエンジェル達に参加を呼び掛けたところ、8人のエンジェルが四国高知に舞い降りました。

開催期間中はスタッフと共に試験ハウス内の案内や、当イベントの巨大なシンボル『ゆりタワー』の前でたくさんの来場者と写真撮影を行いました。来場者と積極的に交流してくれたおかげで、終始会場内は和やかな雰囲気にも包まれていました。お揃いのポロシャツを着たりリリーエンジェルがステージに立てば皆会話をやめ、「世界一きれいなものは、お父さんが育てたユリだ」という彼女たちの話に耳を傾け、ユリの本当の美しさをもっと知ってもらうために地道に活動する健気な姿に、来場した方々は温かく大きな拍手をおくっていました。

更に、こういったプロモーション活動だけに留まらず、ハウス内では直接切花生産者にゆりについて色々教えてもらい、自らもリリーエンジェルとしてレベルアップしようと勉強する姿を多々見かけ、頭の下がる思いがしました。



昨年10月のリリーエンジェル2013結成後直ぐ全国に散らばり活動を始め、なかなかお互いが顔を合わす時間がなかったわけですが、活動期間も残り半分となったこの時期に、全員とは言えなくとも、他のメンバーとの再開を果たせた彼女たちにとって大変有意義な時間を過ごせ、良い折り返しができるのではないのでしょうか。今後もリリーエンジェルの活躍を期待しています。

ゆりフェスタ2013 in 中村農園 実行委員長 畠中吉幸



来年ブラジルで行われるサッカーワールドカップの出場が決まりました。直後のコンフェデ杯では惜しくも結果は残せませんでした。やるべきことがいろいろあることが見えたのではないのでしょうか。「世界を驚かせる」という言葉、とてもいいなと思います。どこかよその国の真似でなく自分たちの良さを生かして全力で人々を驚かせるようなプレーをする。これってお花屋さんにも言えることなのかなと思ったりします。これからユリの出番です。世界を驚かせましょう！

アイバルブ・ジャパン・ニュースレター2013年6月号(第007号) 発行: アイバルブ・ジャパン

HP: <http://www.ibulb.org/>, <http://www.kyukon.info> メールアドレス: ibulb@aurorajp.com